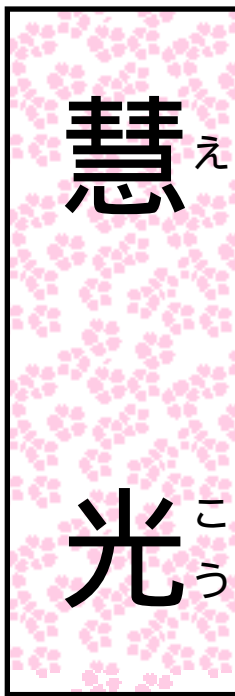




稚児行列で法要デビューしました(4月5日・浄専寺にて)



金光寺寺報 第166号 発行所 金光寺 宮崎県西臼杵郡 五ヶ瀬町大字鞍岡 5927番地 0982 83-2338

今月のことば

出会わねばならない ただひとり的人在る それは私自身

廣瀬泉師(1924~2011)は「私自身」といわれました。これは信心の一部が智慧とい...

といわれました。これは信心の一部が智慧という意味ではなく、信心イコール智慧という関係...

私を往生に導く智慧の念仏は、法蔵菩薩の本願力によって与えられたものです。信心も同様...

仏事お休みのお知らせ

下記の日は緊急を除き、仏事は行いません。ご協力をお願いします。

- 4月 25日(土) 午後 26日(日) 午前
5月 21日(木) 終日
6月 13日(土) 午後 14日(日) 終日

3月、次の金光寺門信徒の方がご往生なさいました。謹んでお悔やみ申し上げます。

Table with 4 columns: Year, Date, Name, Age. Lists deceased members from March 2015.

ホームページ開いています。 URL http://konkhoji.jp/ 4月9日現在 アクセス数 75,617人

先月号二ページに書いた「私の衣を着た時の呼称」についていろいろとご意見をいただきました...

住職ひとりごと

仏教用語豆辞典

世間

「渡る世間に鬼はなし」「世間は広いようで狭い」「世間の口に戸は立てられぬ」

「世間並みにしてほしい」というこの辺でやめましょう。とにかく、仏教語「世間」は、このようにもはやされていま...

このような境界は、現実のこの世のことですから俗世間です。が、そこを超越した仏さまの境界は世間といいますが、世に出...

「仏教用語豆辞典一〇〇パート」から (本願寺出版社発行 辻本敬順著)



# 寺本哲郎師 逝く

今月七日、隣保班(寺村組)の花見をしました。

当初、見頃は十日くらいになるだろうと思っていたのですが、四日があまりに暖かくなり、朝、四分咲きだったのが夕方はほぼ満開状態になりました。翌五日は未明に雷がなり、雨が激しく降る状況。桜も散り始めあわてての花見となりました。



松若丸(親鸞聖人の幼名)さまが得度式(出家の儀式)の際に作られた辞世のお歌

明日ありと  
思ふ心のあだ桜  
夜半に嵐の  
吹かぬものは

を思い出し、あやうく花見ができなくなるところだったと思つたことでした。  
モクレンやシャクナゲも咲き始め、境内は百花繚乱の様相です。  
そんな中、三ヶ所浄専寺の前住職寺本哲郎師が同じく四月七日満八十六歳を一期としてご往生なさいました。私の結婚の際、媒酌人をしていただきました。また、折にふれて僧侶として歩むべき道をお示しく下さいました。住職と

して、僧侶として、人として生きているお姿で私を指導してくださった先生との別れは残念でなりません。

浄土真宗本願寺派開教使、僧侶として浄土真宗の布教伝道をつとめられ、多くの念仏者をお育てになりました。

また、宮崎県の教職員としてたくさんのお教えを立派な社会人として社会に送り出されました。

五ヶ瀬町の教育長としても活躍され、教育行政の面でも素晴らしい足跡を残されました。

趣味の面では、写真撮影で多くの美術展で入選され、宮崎県はもとより県外でもその名をとどろかせられました。  
恩厚で誠実なお人柄、温かさ、優しさを感じる先生の笑

顔をもう拝見することはできません。しかし、先生から賜った尊い多くの教え、言葉、温もり、優しさは無くなることはありません。

これからは還相の菩薩としてお導きを下さいと念ずることです。  
人は去りても  
優しさは残る  
人は去りても  
温もりは残る  
人は去りても  
言葉は残る  
その人は  
合わす手に帰ってくる  
同じ念仏に  
生かされるよろこび

満八十六歳の先生の人生をお偲び申しあげ、善知識として、人生の師としての尊いお導きに感謝しお念仏申しあげます。  
南無阿弥陀仏  
南無阿弥陀仏

## 法語の世界

〈原文〉

蓮如上人仰せられ候ふ。信のうへは、たふとく思ひて申す念仏も、またふと申す念仏も仏恩にそなはるなり。他宗には親のため、またなにのためなどて念仏をつかふなり。聖人(親鸞)の御一流には弥陀をたのむが念仏なり。そのうへの称名は、なにともあれ仏恩になるものなりと仰せられ候ふ云々。

(蓮如上人御一代記聞書 百七十九)

〈現代語訳〉

蓮如上人は「信心をいただいた上は、尊く思つて称える念仏も、またふと称える念仏も、ともに仏恩報謝になるのである。他宗では、亡き親の追善供養のため、あるいはまた、あれのためこれのためなどといつて、念仏をさまざまに使つてゐる。けれども、親鸞聖人のみ教えにおいては、弥陀を信じおまかせするのが念仏なのである。弥陀を信じ念仏は、どのようであれ、すべて仏恩報謝になるのである」と仰せになりました。

### 4月の二十四節気と七十二候

(は二十四節気・は七十二候)  
清明(せいめい・4月5日)  
花が咲き、蝶が舞い、空は青く澄み渡り爽やかな風が吹く頃のこと。  
玄鳥至(つばめきたる・初候・4月5日~9日頃)冬の間、東南アジアの島々で過ごしていたツバメが海を渡って日本にやってくる頃。  
鴻雁北(こうがんかえる・次候・4月10日~14日頃)冬の間日本で過ごした雁がシベリアへと帰っていく頃。  
虹始見(にじはじめてあらわる・末候・4月15日~19日頃)春が深くなるにつれ、空気が潤い、虹がみることが出来る。

穀雨(こくう・4月20日)  
天からの贈り物でもある恵みの雨が、しっかりと降り注いでいる頃。  
葭始生(あしはじめてしょうず・初候・4月20日~24日頃)水辺の葭が芽吹き始め、山の植物や野の植物が翠一色に輝き始める頃。  
霜止出苗(しもやみてなえいずる・次候・4月25日~30日頃)暖かくなり、霜も降らなくなり、苗がすくすくと育つ頃。  
牡丹華(ぼたんはなさく・末候・5月1日~5日頃)百花の王である牡丹が開花し始める頃。

### 初参式で参詣

4月4日、本年3月4日生れ新野翔太郎くん(勝也・奈菜子ご夫妻長男)がご両親、両家おじいさん、おばあさんと共に初参式に来てくれました。  
仏の子として健やかなる成長をお念じ申し上げます。

